

平成 22 年 7 月 1 日

創立記念式典で高嶋社長が挨拶

－10年後の創立120周年に向けて、魅力ある企業を目指す－

株式会社電通（高嶋達佳社長）の創立109周年記念式典が、7月1日（木）午前10時から東京本社と、関西、中部の各支社で開催された。東京本社の109周年記念式典は汐留本社ビル1階電通ホールで行われ、高嶋社長が所信を述べた。要旨は以下のとおり。

◇

2010年は、上海万博、FIFAワールドカップ™南アフリカ大会、そして11月に広州で開かれるアジア競技大会など、これから世界経済を牽引していく新興国の都市でイベントが開催される象徴的な一年といえる。私は先月、上海万博を視察したが、そこで感じたことは、「国家」と「そこで暮らす人々」が持つ、大きな発展を遂げていく瞬間の熱気と勢いであった。

このように、今後、ますます経済力を強めていく中国をはじめとする新興国において、競争力を高めるために、私たちは投資を含めて様々な施策を導入することはもちろん、次の成長に向けて、世界各地で電通グループの存在感を高めていかねばならない。

電通グループは、あと約10年で創立120周年を迎えるが、これから先の10年は世の中がとて速いスピードで変化し続けることは間違いない。そこで、今後、世界がどのように変わっていくのかを、私なりに考えてみた。

まず、先日iPadが発売されたが、それらとは全く異なる、それこそ想像もつかないような次世代のデジタル・デバイスが誕生し、メディア環境も大きく変化し、マスメディアとデジタル、通信と放送の融合が進み、業界各社は、大きく変貌しているだろう。そして、中国、インドが経済大国としての地位を確固たるものとし、それらに続く新興国が経済成長を競い合っているだろう。また、消費のためのコミュニケーションだけではなく、社会の役に立つ「ソーシャル・コミュニケーション」の領域も益々重要な役割を担うようになっていく。

これらはほんの一部の話したが、10年後には、私たちを取り巻くビジネス環境は、大きく変わっているはずである。従って、電通グループは、そうした変化をとらえながら、企業として勝ち続けていくためにどうすべきか考えねばならない。

そのために今後、電通グループの経営は、国籍や人種、男女の性別を問わず、能力のある人々がその中枢を担い、社内にいる優秀な人材、世界各地に存在している優れた才能を有機的に結び付けた組織づくりを進めていかなければならない。そして、多様性を尊重し、異なるものをグローバル規模で繋げて、新しい価値を創り出していくのである。

また、デジタル化が進む時代において、電通グループは、プラットフォームビジネスのキープレイヤーとしての地位を確立するとともに、「クリエイティブ」と「メディア」といった職種の間根が低くなる中、コミュニケーションをデザインし、コミュニケーションのストーリーを創り上げ、テクノロジーを駆使した仕事を実施していくようになる。

広告やマーケティングという仕事は、日常を豊かにするという重要な役割を担っている。歴史ある電通グループを、広告会社の定義を変えていくような、「新しいコミュニケーションズ・グループ」として、働きがいのある、魅力ある企業にしていきたい。